



小野中学校だより
第 卒業2号
文責：校長 大河原久宗
2018. 3. 13. TUE

TEL:72-3355 FAX:72-2829

<教育目標>

【夢～自立・友愛・健康】

- ・課題を持ち、進んで学ぶ生徒
- ・互いのよさを認め、高めあう生徒
- ・健康で、心身を鍛える生徒



平成29年度 卒業証書授与式 式辞！



【最後のメッセージ】

福島市出身のタレントで、「電波少年」というテレビ番組で有名になった、なすびさん。本名：浜津智明さん（41歳）。彼は、4度目の挑戦で、世界最高峰、8848mのエベレスト登頂に成功しました。なぜ、なすびさんは、エベレストに挑戦したのでしょうか。登頂するどころか、そこにいることすら「命の危険」が目の前にあるような危険な山です。さらに、もともとは登山が苦手な山に登ることがなかったのです。

今日は、なすびさんの生き方を紹介します。

平成28年5月19日、日本時間午後3時40分、4度目の挑戦で登頂に成功したときの写真です。彼が、なぜ、エベレストを目指すことを考えたのでしょうか…

それは、平成23年3月11日に発生し、震災関連死を含めて、死者・行方不明者が2万1987人の大きな被害をもたらした「東日本大震災」です。福島県は、東京電力第一原子力発電所の事故も重なりました。何かできることはないか。今できること、小さなことでもいいからやってみようと、福島県に寄り添って、「物産展」の応援活動を行っていました。しかし、活動中に「記憶の風化」を感じたのがきっかけでした。

登山初心者が、世界一高い山に登ることができれば、それは奇跡だ。被災地福島県に元気を与え、世界に福島を伝えることができると思い、挑戦を決めたなすびさん。1回目の挑戦は平成25年。あと150mのところまで天候が悪化し断念。2回目の挑戦は平成26年。雪崩死亡事故が発生しルートがなくなり中止。3回目の挑戦は平成27年。ネパール地震が発生し断念。

しかし、挑戦はあきらめていませんでした。4度目の挑戦に向けて、平成27年の冬に青森から相馬市までの東北沿岸部900Kmを歩きました。その時に、岩手県や宮城県の方々からも応援をもらったそうです。東北にも元気と勇気を、夢と希望を届けたいと挑んだ、平成28年5月19日、4度目の挑戦で、エベレスト登頂に成功しました。「人間やればできるんです。奇跡は起こる。一緒に頑張っていきましょう」と頂上からエールをおくりました。

目指してからこの4年間、様々な困難や苦難、悲運や不運にも見舞われ、悔し涙もたくさん流したなすびさん。

しかし、なすびさんはいつも笑顔でいました。今回のエベレスト登頂は、福島県で復興に歩む人たち、ふるさとを愛する人たちに大きな勇気と希望を伝えてくれました。「成し遂げられたのは、応援して下さった皆さんのおかげです」といつも謙虚にこたえます。



4度目の挑戦で登頂に成功したことは、「転んでも転んでも何度でも起き上がる、福島県の縁起物の起き上がり小法師（こぼし）の様」と振り返りました。

平成28年9月、なすびさんは田村市に来て下さいました。

講演会の中で、「叶わない夢なんてない。5回失敗しても10回失敗しても、**あきらめない**という強固な気持ちで努力を続ければ、**叶えられる夢はある**んじゃないかな。」と話されました。

あきらめないなすびさんの「生き様」にふれた皆さんへ最後に送る言葉。

「道」

自分には自分に与えられた道がある。どんな道かは知らないが、ほかの人には歩めない。自分だけしか歩めない、二度と歩めないかけがえのないこの道。広いときもある。せまいときもある。のぼりもあればくだりもある。道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。高い志や夢の存在こそが皆さんの行動を促し、その結果として、皆さんの世界を広げ、道が開けるのです。

もちろん、努力してもその努力が報われない時はあります。苦しいことや悲しいことも経験していくことでしょう。しかし、そんな時でも努力することを怠らなければ、必ず道が開け、描いた夢に近づくことができるでしょう。ぜひ、この地球上でただ一人の自分を大切に、可能性に挑戦し続け、頑張っている自分を見つけてください。そして、高い志を抱いて、誠実に、夢に向かって、堂々と胸を張って、自分の選んだ道を進んでいってください。あきらめなかった、なすびさんのように。

最後はお願いです。東日本大震災。多くの人たちが苦しい立場に立たされました。7年経った今でも5万人の方が県内外で避難生活を強いられ、避難区域にある小中学校の児童生徒は今も避難先で授業を受けています。福島県が一日も早く元の福島に戻るためには、皆さんの若い力が、エネルギーが不可欠です。多くの方々に支えられていることへの感謝の気持ちを忘れず、未来に向かって挑戦することをお願いいたします。

さあ、卒業生の皆さん、羽ばたきの時です。胸を張って、堂々と笑顔で飛び立ってください。最後の授業の式辞といたします。

小野中学校長 大河原 久宗



夢への挑戦は続きます！



自信と誇りと感謝を胸に！



自分を信じ
夢を信じ
できると信じ
前に進めば
かならず できる